

年度評価シート

課名 子ども未来課

施設の名称 城東子育て支援センター	指定管理者名 特定非営利活動法人 なのはな
<p>1 履行状況</p> <p>年間を通して協定書（仕様書）及び事業計画書に従って、適切に履行されている。</p> <p>（1）維持管理業務</p> <p>施設内の衛生管理・清掃業務や設備の日常点検等、仕様書に沿って適切な施設管理、良好な環境整備が行われている。</p> <p>（2）施設利用者数</p> <p>利用者数は 19,573 人（前年度 16,329 人）、相談件数は 2,962 件（前年度 1,975 件）。対前年比では利用者数（119%）、相談件数（149%）ともに増加した。徹底した感染防止対策など、利用者の安全に配慮した上で、コロナ禍における利用者の不安に寄り添った相談支援が行われており、静岡市の子育て支援の中心となる施設として安定した運営を行っているといえる。</p> <p>（3）事業実施状況</p> <p>子育てに関する交流事業、相談事業、情報の収集や提供などについて、事業計画に従って適切に行われている。また、周辺の児童館等と連携を図り、地域全体の子育て支援の充実へとつなげている。</p> <p>子育てに関する講座等は魅力ある事業が展開されており、100回以上（毎日、毎週開催しているものは含まない）もの回数が実施されている。</p> <p>また、地域のこども園、保育園、児童委員、保健福祉センター等との連携を深めることを目的とした連絡会を年2回実施している（うち1回は感染拡大防止のため紙面開催）。ボランティアの受け入れも行い、地域との交流を図り、地域全体の子育て支援の充実へとつなげている。</p> <p>主な講座、連携事業は以下のとおり</p> <p>絵本読み聞かせ、助産師さんに聞いてみよう、発達講座、 子育てママの井戸端会議、プレママ育児講座等 中央ブロック子育て支援連絡会開催、 養成講座を修了したバディプロジェクト子育てサポーターのボランティアとしての受け入れ、地域の子育て支援団体による読み聞かせ、 城東保健福祉センターとの連携、学生ボランティアの受け入れ等</p> <p>（4）職員の配置状況、職員研修等</p> <p>仕様書に基づき、常時2名以上の育児・保育に関する相談指導等について相当の知識及び経験を有するものを配置しており、うち1名は施設長として配置している。な</p>	

お、保育士以外にも臨床発達心理士を1名配置（週2～3日）し相談に対応している。
研修については、地域の子育て支援連絡会での研修や法人主催の研修会に積極的に参加し、より質の高い子育て支援センターの運営に努めている。
参加した主な研修は以下のとおり
中央ブロック子育て支援連絡会研修、保育の質向上研修会等

2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等）
特にクレーム等もなく、日ごろから利用者の声を積極的に取り入れていく運営方法は評価できる点であり、今後も継続されることを期待したい。

3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価
利用者満足度調査における調査項目のうち「とても満足・やや満足」と答えた人の割合は、①施設の設備、②おもちゃなどの遊びの環境、③職員の対応、の項目において100%、④感染症対策、⑤講座・イベントの内容、の項目において99%という結果であり、多くの利用者に対し満足度の高いサービスを提供していることがわかる。
利用者の自由記述においても、「職員がとても親切で気軽に子育て相談がでるのが良い」「職員も施設内も雰囲気明るく、あたたかい」「木のおもちゃが良い」「おもちゃが充実しており兄弟でも一緒に楽しめる」「感染症対策がされており安心して利用できる」等好意的な意見が多く、利用しやすい施設運営ができていることがわかる。特に、職員の対応については、「信頼できる人に話を聞いてもらえるのが大きい」「さみしさがなくなりました」「他愛ないことでほっとできる時間になりました。」等の意見が多く、質の高い子育て支援サービスを提供しているといえる。

4 指定管理者の経理状況の評価
指定管理業務の収支状況については適切な経理状況である。
今後とも効率的な運営に留意した上で、より充実した事業実施のための予算執行を望みたい。

5 総合的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

全体的に良好な子育て支援サービスの提供が行われている。
対前年比で利用者数が増加した。感染対策を徹底して施設運営をしており、利用者への丁寧な支援が行われ、業務は適正に実施できている。
コロナ対策としては、利用時間や人数の制限、施設内の消毒等を実施し、安心・安全な施設運営が確保されている。人数制限によりコロナ前の混雑したフロア状況とは異なり落ち着いて利用できる環境となったことから、少人数で交流ができるような支援（あそぼの会・井戸端会議等）をこまめに実施し、利用者同士がつながりやすくする等、コロナ禍で制限がある中でもより良い施設運営をするための指定管理者の創意工夫が見られた。
相談件数も増加し、保育士の専門性のある話を聞きたいというニーズにも対応でき

ている。また、保育士以外に臨床発達心理士を配置し、フロアでの何気ない相談にも応じる体制をとっており、利用者目線に沿った対応を図っている。

城東保健福祉センターや地域と連携した事業を展開しており、近隣の学校等とも良好な関係を築いている。さらなる地域との連携事業の展開を期待するとともに、安心安全な子育て支援環境の提供を継続していくことを期待する。

※事務事故が発生したとき及びモニタリング調査において改善に向けた協議があったときは、必ず改善状況を記載すること。